

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	高岡短期大学	整理番号	2-3-003
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	小松 研治		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、生活者の視点を持ったものづくりの作り手と豊かな生活者（使い手）を養成することを目指した。ものづくり教育にあたっては、模擬社会としての大学環境を発想・実践制作・検証の場を利用することにより、制作技術だけでなく、モチベーション、使い手の視点、社会への参加意欲やコミュニケーション能力等を養成する。経営関連科目の履修、市場調査、異分野の学生による共同制作など融合教育を試み、また、実社会と同スケールの課題設定、大学が発注者となる模擬の受注制作、競争原理の導入、大学内外の第三者による評価などを工夫したことによって、履修学生の制作意欲・就業意欲の向上、実社会からの制作依頼など地域連携の誘発、教員のFDへの貢献、さらに大学構成員全体の大学への愛着心・生活者意識の醸成などの成果があがった。今後は、地域連携授業やインキュベーション教育事業など取組の範囲を実社会に広げていく。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、高岡短期大学において、「地域の多様な要請に積極的に応え、広く地域社会に対して開かれた特色ある短期大学を目指すと共に、我が国の短期大学の今後の運営及び教育研究の改善に資する」という設立趣旨に基づき、「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を展開し、模擬社会としての大学環境を舞台にした実践型ものづくり教育を行い、生活者の視点をもったものづくりの担い手（作り手）を育成すると共に、大学環境の充実によって豊かな生活者（使い手）の育成を目的としています。</p> <p>すでに、平成4年度より「指物法」という授業において学園食堂厨房のスツール作りを開始し、その後、平成11年度には「家具製作」「造型工芸実習」「複合造形」等の授業において、実践型制作と融合教育に重点をおいた授業を展開するようになっていきます。このような授業形態は新しい形式の教育形態として注目され高く評価されます。また、制作された作品は、複数の教員や第三者によって作品評価とプロセス評価等において評価をされるなど教育的努力が高く認められます。</p> <p>教職員によるアンケートの結果で、多くの項目で高得点を得ており、学生が十分に利益を受けていることがわかります。また、平成8年以来、多くのマスメディアに取り上げられる等、今後、我が国の大学や短期大学の工学部を中心としたものづくり教育の参考となることが期待されます。</p>			